

季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



正月は一年の始まり。

新しい年の再生を祝い、つつがない一年を祈る

(年神さまを迎えて、昨年の実りと平穏に感謝し、

新しい年の豊穰と平安を祈念する行事)

鏡餅は、年神様のご神体として

正月行事の中心に位置するものです。

餅を大小二つ重ねるのは、

福德の重なることを願う心から。

黒豆はまめに過ごす——健康を祈り、

勝栗は「勝つ」の祝詞を、

五万米(田作り)は子孫繁栄を願い、

コロ柿は、修練の後には床上の飾り物にまで

成り得るといふ

精神の気高さを表現したものです。

受講の感想

室礼を体験して一番感じたことは、普段よく意味を考えず、何気なく年中行事の飾り付けを見たり行っていたこと。飾りに使われる野菜、果物等すべての物が、自然界とつながり、ひとつずつ意味を持っていたこと。そして、言葉や文字が植物と深く関わりを持っているということ学び、大発見をしたような楽しさがありました。ひとつの盆果の上で、ものを言わない物を通して、日本古来からある文化と想いを読み取れた時、先人達は天才だったのではと感じました。財団に戻り、さっそく1月の室礼を再現しました。新年は心を込めて皆様をお迎えしたいと思います。(熊丸梨奈)

提供：室礼三千(しつらいさんぜん)

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020 (火～土曜日午前10時～午後5時/日・月曜定休日) ●体験教室もあります